

恵山の火山活動解説資料（令和元年10月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～6）

29～31日に現地調査を実施しました。X火口及びY火口の噴気や火口の状況に変化はなく、赤外熱映像装置による観測でも地表面温度分布の状況に変化は認められませんでした。

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②～③、図7）

18～19日にかけて、恵山直下を震源とする地震が一時的に増加しました。最大規模の地震は18日11時31分に発生したマグニチュード2.6（暫定値）の地震で、函館市新浜町と函館市日ノ浜町で震度1を観測しました。この地震の前後で、火山活動に特段の変化は認められませんでした。18～19日以外の日の火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図1-④）

火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>）や気象庁のホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

今回の火山活動解説資料（令和元年11月分）は令和元年12月9日に発表する予定です。

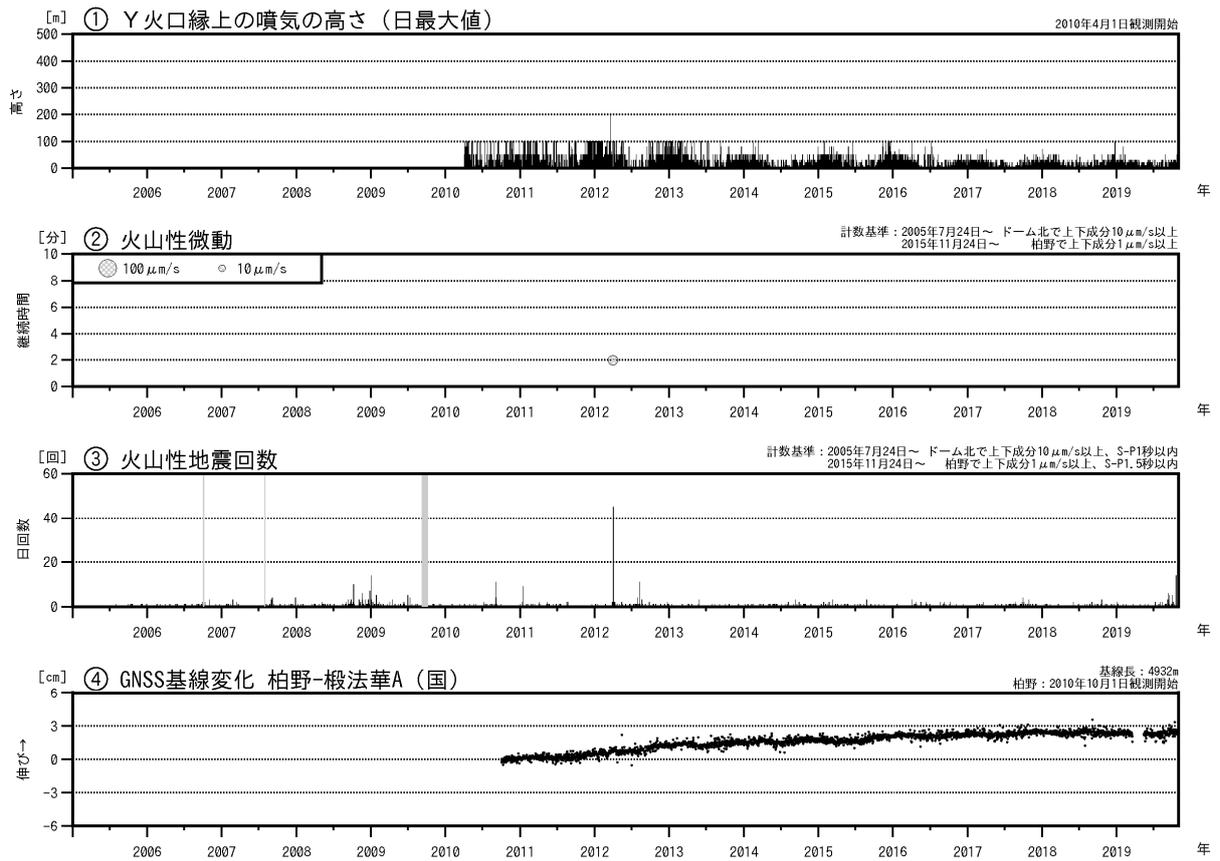


図1 恵山 火山活動経過図（2005年7月～2019年10月）

- ③の灰色の期間は機器障害のため欠測しています。
- ④のGNSS基線は右配置図に対応しています。
- ④のGNSS基線の空白部分は欠測を示します。
- ④のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。

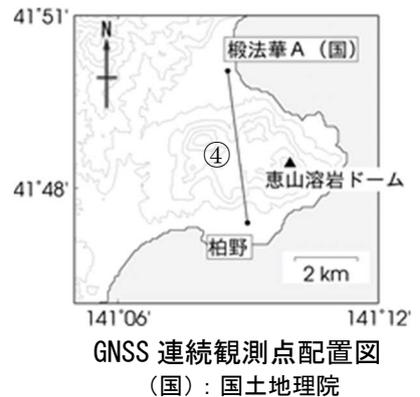




図2 恵山 西南西側から見た山頂部の状況（10月30日、高岱監視カメラによる）

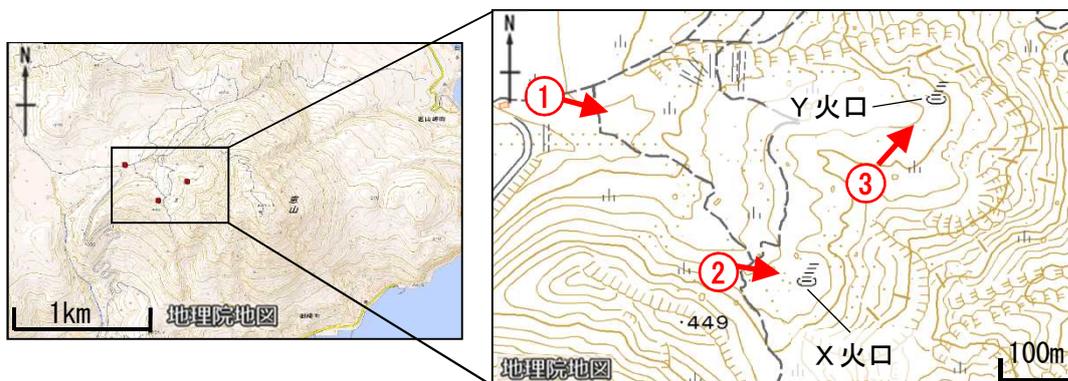


図3 恵山 写真及び赤外熱映像の撮影方向（赤矢印）



図4 恵山 山頂ドーム全景 西北西側（図3の①）から撮影

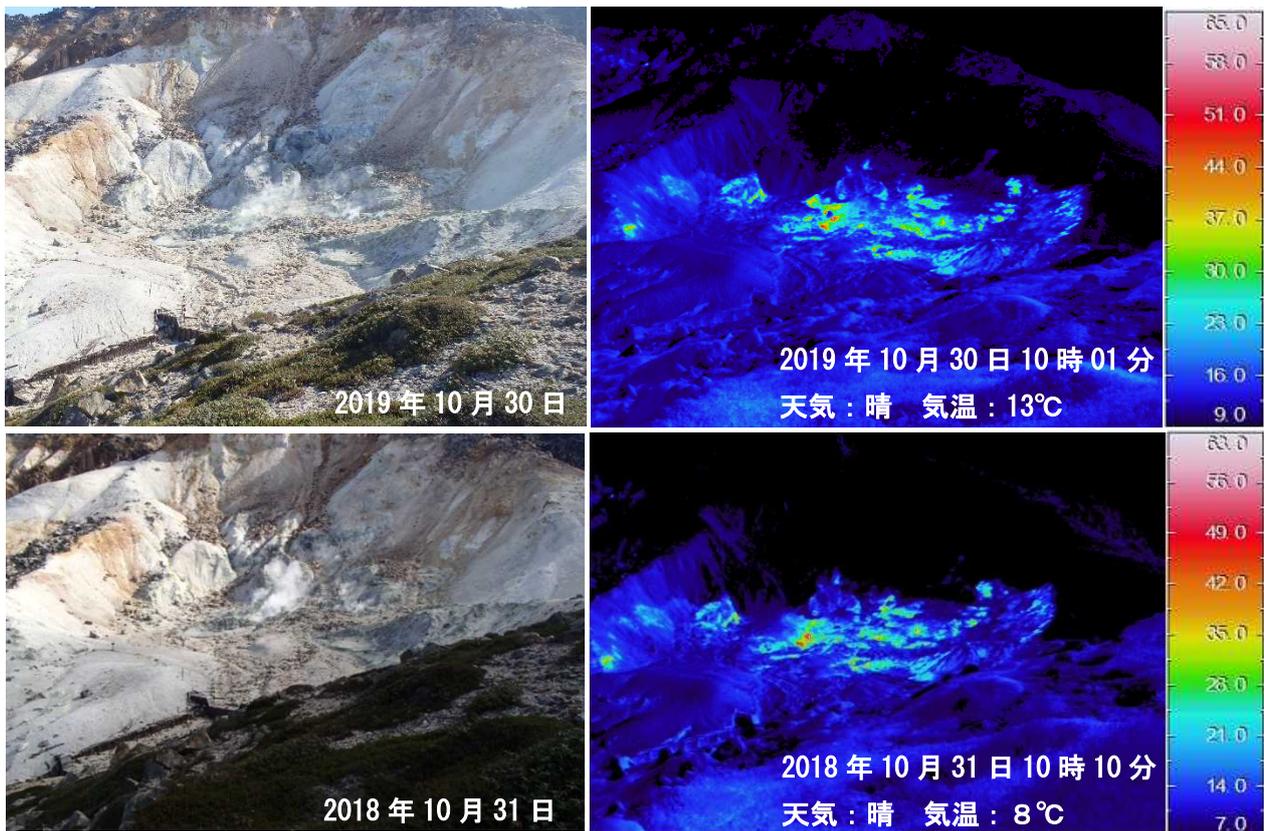


図5 恵山 赤外熱映像装置によるX火口内の地表面温度分布
西側（図3の②）から撮影

・前回（2018年10月31日）の観測と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした

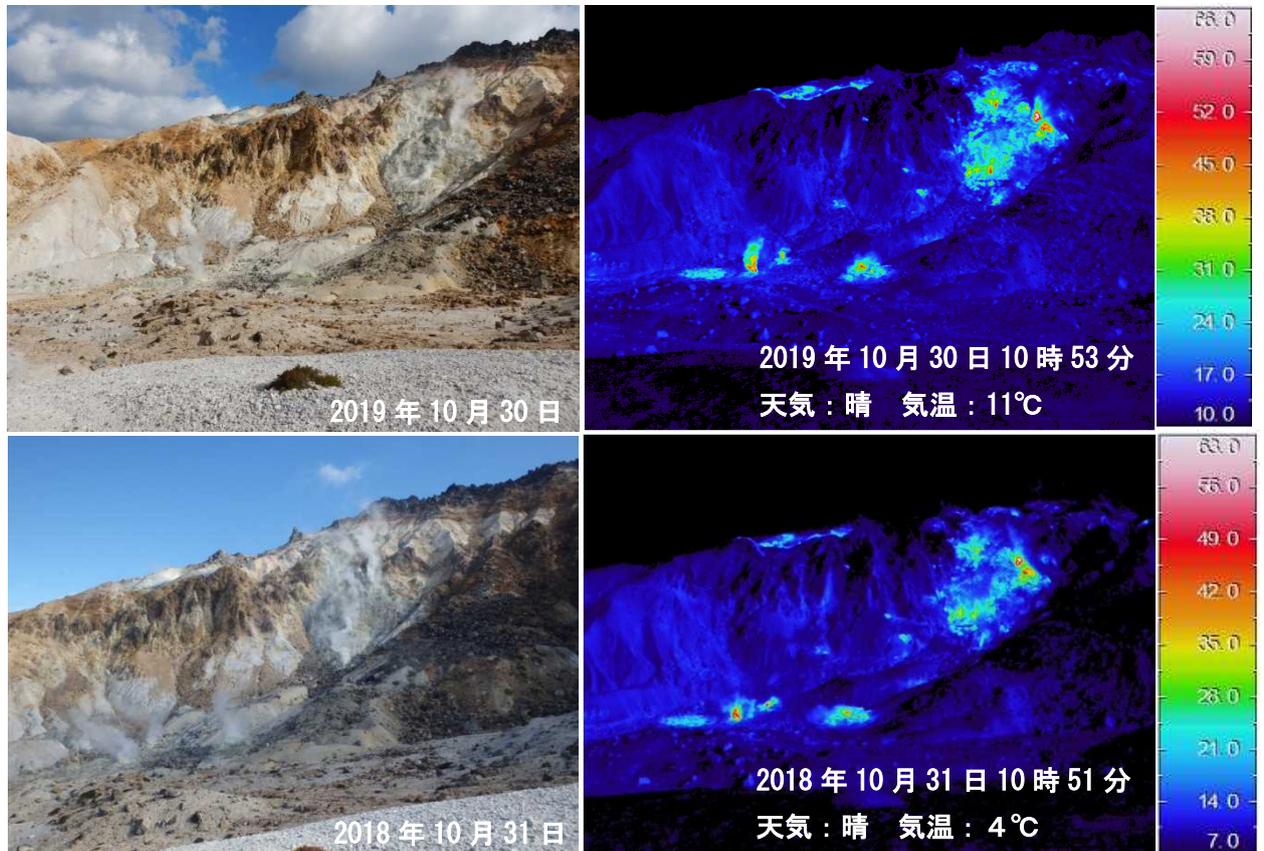


図6 恵山 赤外熱映像装置によるY火口内の地表面温度分布
南西側（図3の③）から撮影

・前回（2018年10月31日）の観測と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした

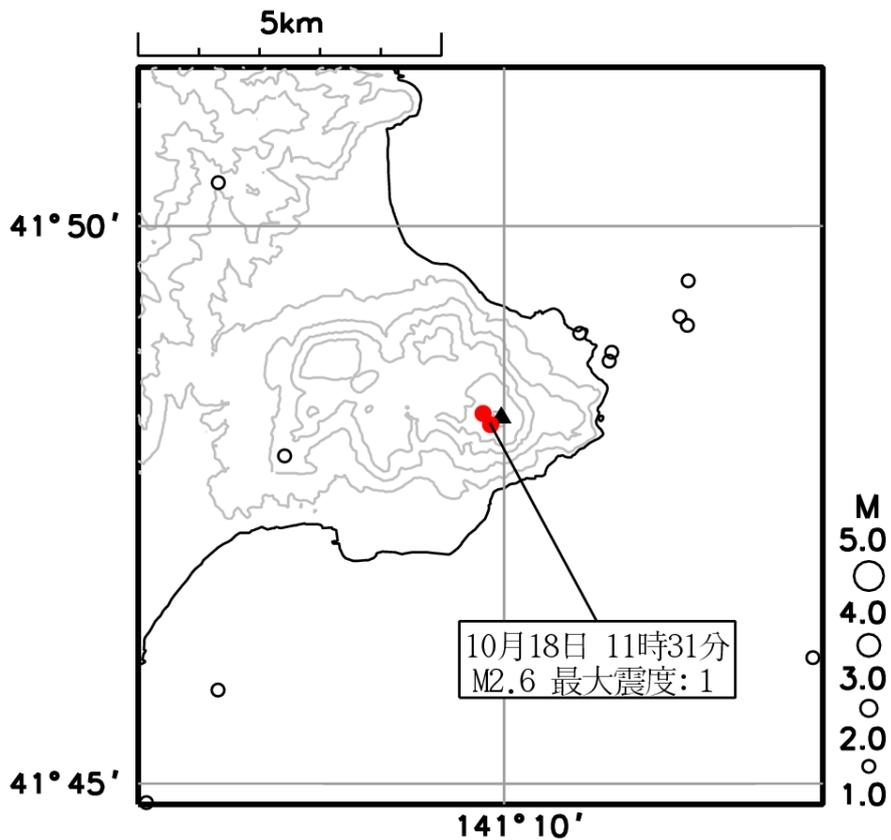


図7 恵山 広域地震観測網による山体周辺の地震活動
 (1997年10月～2019年10月、マグニチュード ≥ 1.0 、深さ20km以浅)
 ○印：1997年10月～2019年9月の震源
 ●印：2019年10月の震源

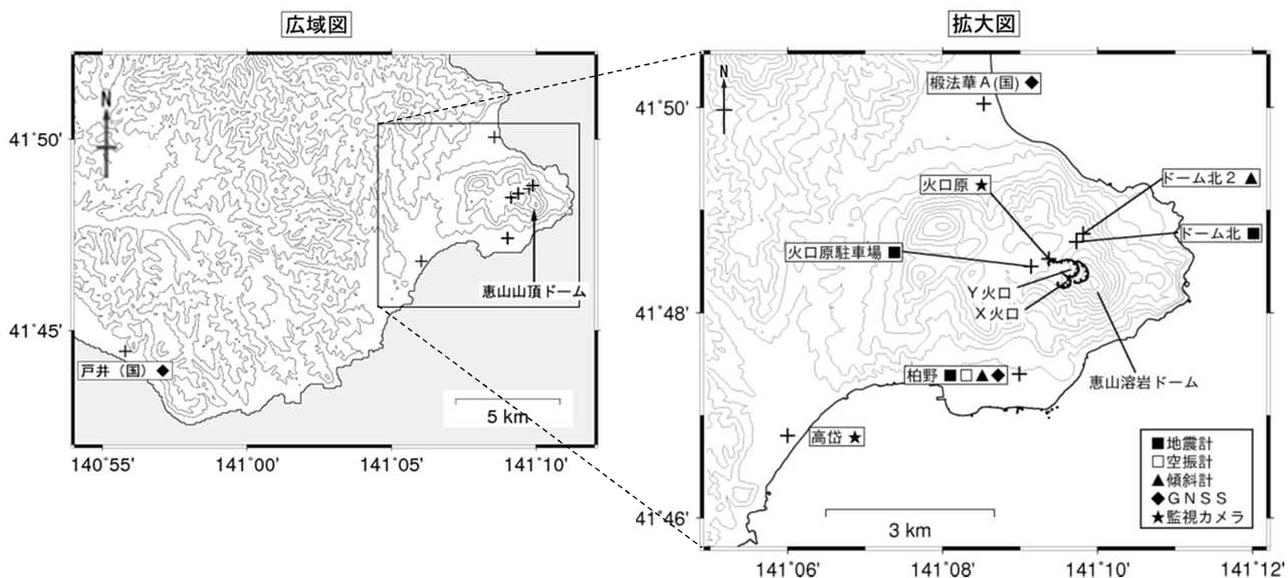


図8 恵山 観測点配置図
 +は観測点の位置を示します。
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
 (国)：国土地理院